



「志五中だより」

～響き合う学びのエリア 志五中・舟渡小ブロック～

- 【教育目標】
- ・自ら考え行動し 進んで学ぶ人
 - ・思いやりの心もち 社会に貢献できる人
 - ・豊かな情操と体力を育み 心身友に健康な人

令和6年度 第1号
令和6年4月12日発行
板橋区立志村第五中学校
校長 溝口 千里

「夢と可能性」を求めて

未来から今を見なさい!

4月8日、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。志村五中を象徴する「くすのき」や植栽で植えられたチューリップ、満開で新学期を迎えた桜など、朝の通勤が楽しみな毎日です。私は、令和6年4月1日、本校校長に着任した 溝口千里(みぞぐち ちさと)と申します。高島第二中学校より参りました。どうぞよろしくお願いいたします。学校だよりを通して学校の様子等を毎月、発信して参りますので、御愛読いただければと思います。

新しい学校に異動するに当たって改めて考えを巡らせると、私たち大人が中学生であった時代とは大きく異なる教育内容や教育方針が必要と感じます。今の中学生が社会の中心で活躍しているであろう20年先の社会を考えみてください。未来から今を見るとAIの時代に必要な資質・能力やスキルを育むための教育活動が今求められます。知識を得るだけの授業から、得た知識を活用する授業へ、受け身の授業から生徒が主体的に学ぶ授業へ、学ぶ内容そのものだけでなく、その学び方を習得する授業へと変わっていかねばなりません。

その一方で、社会が変わって教育が変わっても、変わらぬ地域と共にある学校を理想と考えています。生徒が地域で活躍でき、地域の方も学校に貢献できる機会がある、そんな学校にしていきたいと思ひます。

中学校3年間で、生徒はどのように成長し

ていくのでしょうか。今年度の7年生は約半数が舟渡小学校から、四分の一が志村第六小学校から、残りの四分の一の生徒が6つの小学校からの入学になります。7年生は、新しい仲間に対して、自分をさらけ出し、周りの仲間を理解することで集団づくりができることと思ひます。

8年生は、一年間の中学校生活を終え、いろいろなことに慣れました。中学校生活二年目に多様な経験を積み、目的をもって活動することでさらに成長していくことでしょう。

9年生は、自分を見つめ、自分にできることを増やす年です。義務教育の終了に向けて、希望の進路実現に向けて、自立には自己理解が欠かせません。夢をもち、無限の可能性をどんどん広げていってほしいと思ひます。

保護者の皆様には、本校の生徒のみならず、地域の子どもの現状と学びのエリアのめざす子ども像である「進んで学ぶ子ども」「社会に貢献する子ども」「心身健康な子ども」を学校と共有し、地域全体による子どもの育成に御協力いただければ幸いです。

本校は、学校と地域が力を合わせて学校の運営に取り組む「地域とともにある学校」の基盤がすでにできあがっています。コミュニティ・スクール委員の皆様を学校のパートナーとして、学校のビジョンについて協議し、また御承認いただき、学校の実践を外側から支援していただける関係を築いて参りたいと思ひます。

